

VISTA X ユーザーレポート

株式会社テレビ東京 様

Vista X-52F



天王洲第2スタジオを Vista X で更新



株式会社テレビ東京
技術局 制作技術部
永久保 仁志

天王洲第2スタジオ更新

1999年12月に完成したテレビ東京天王洲スタジオも15年という月日の流れとともに設備の老朽化が顕在化してきたため、天王洲第2スタジオの更新の検討を開始しました。音声システムは音声調整卓の更新をメインとし、「音質が良いこと」「2プログラム制作可能なこと」「システムが冗長性を持つこと」「シンプルなシステムであること」といったポイントを主要コンセプトと掲げ、機種選定を始めました。

選定理由

VISTA Xは音質が良いことはもちろん、デジタルコンソールでありながらもアナログ・ライクな操作性を実現していると判断しました。レンタルスタジオとしても稼働している天王洲スタジオにおいて、様々なオペレーターの皆様が利用するため、直感的に操作しやすい音声調整卓であることは重要なファクターとなります。さらに、トーク番組の収録が多い天王洲第2スタジオでは、とっさにHAのレベルを変更する必要があるため、各チャンネルにHAの操

作つまみがあるのは非常に魅力的でした。

また、海外中継でも使用する可能性のある音声調整卓を使用することで、音声スタッフのスキルアップにも繋がるということも選定理由の一つとなりました。

VISTA Xは販売開始から間もなかった為、メーカー選定時には国内での導入実績もないという点で不安もありましたが、Infinity COREの採用によるDSPのパワーアップを含め、将来的なメーカー・サポート終了に伴う部品供給に対するリスク低減等のメンテナンス面も慎重に考慮して、VISTA Xの採用に至りました。

音声システム

DSPの性能及び能力アップに伴い、これまではマイクマトリックス・音声調整卓・アウトプットルーターで行っていた音声ルーティング及び処理を音声調整卓内で行うことができるようになり、シグナル・ルーティングを簡素化し、機器実装の省スペース化を実現することができました。

モニタースピーカーは更新前から使用しているDynaudio製M3を流用し、ユニット交換含むメンテナンスを行ったうえで音響調整を行いました。これらの作業に加えVISTA Xの導入により、今までと同じスピーカーとは思えない

程クリアな音を聴くことができるようになりました。主にモニターセクター用途としてBSS AUDIO BLU-160を設備して、モニターマトリックスを構築し、任意の素材を加算してモニター素材を作ることができるようにしました。ミキサー用のモニターに加え、映像エリアを含むサブ内各所のモニタースピーカーや館内共聴などへの素材も自由に選択でき、それらの出力をオペレーターが容易にかつ迅速に管理できるようになりました。

最後に

テレビ東京初のSTUDER製デジタルコンソールであるVISTAシリーズの導入となり、これからも末永くお付き合いをさせていただくことになりました。

また、天王洲第2スタジオ更新の設計・製作に多大なご協力を頂いた関係各社の皆様にこの場を借りて感謝の意を表します。

